

『地元住人との調整について』

発注工事名：令和4年度[第33-D1611-01号]

(-)修善寺天城湯ヶ島線道路改築工事（道路拡幅工）

地区名：三島地区

会社名：土屋建設株式会社

主筆跡者：中村 祐介(現場代理人)

CPDS番号： 234581

1. 工事概要

本工事は、県道修善寺天城湯ヶ島線、伊豆市佐野地内の道路拡幅工事であった。本線は、縦断勾配10%のアップダウンのある道路で歩道の整備がされてなく車道は幅員が狭く車両のすれ違いが困難であり渋滞が発生するため、早期に道路拡幅と歩道整備を施工する工事である。

工 事 名 令和4年度[第33-D1611-01号]

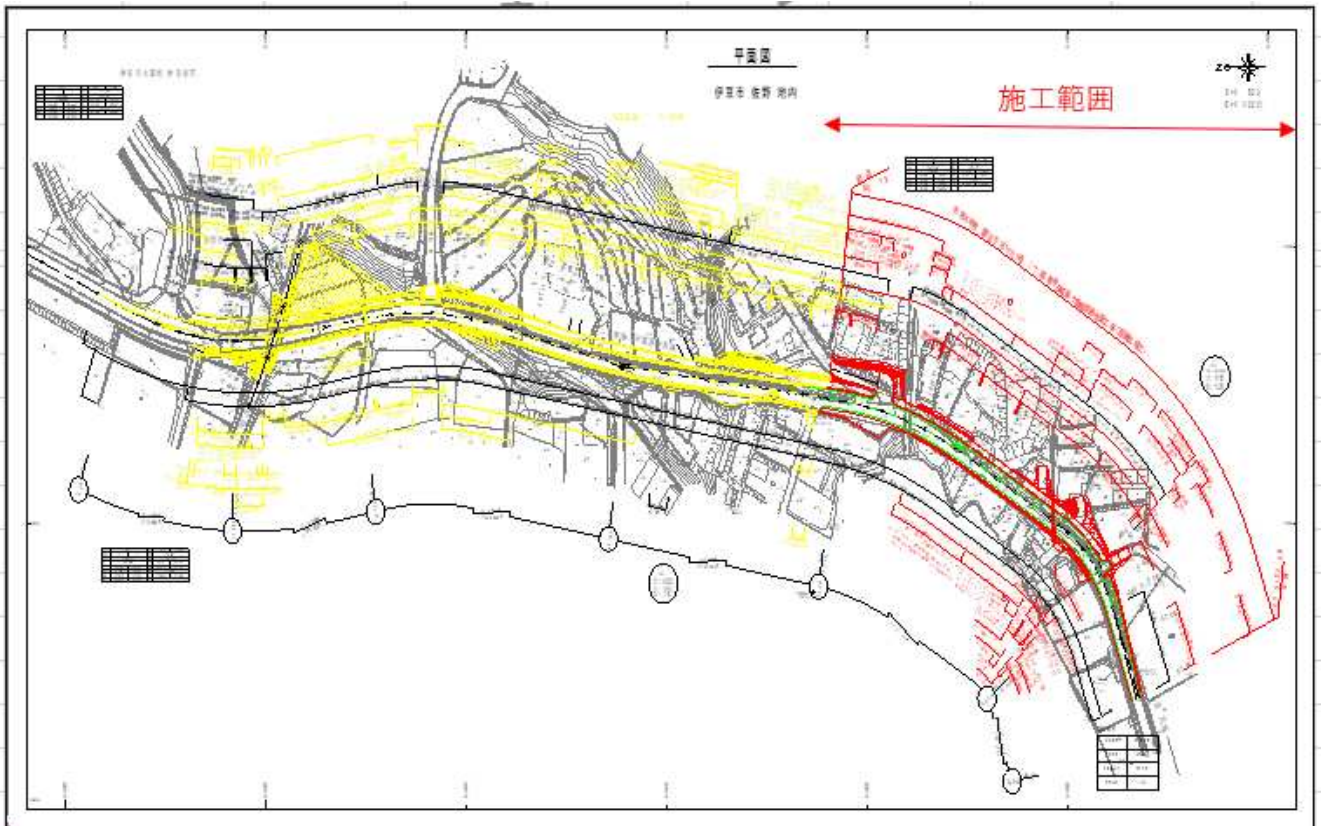
(-)修善寺天城湯ヶ島線道路改築工事（道路拡幅工） 「週休2日指定型」

発 注 者 静岡県沼津土木事務所 修善寺支所

工事箇所 静岡県 伊豆市 佐野 地内

工 期 令和4年8月26日～令和5年6月9日

工事内容 施工延長 196m、コンクリートブロック積 78m²、
プレキャストU型側溝 54m、管渠型側溝 82m 防護柵設置工 75m
車道舗装 900m² 区画線一式 3号取付道路 一式

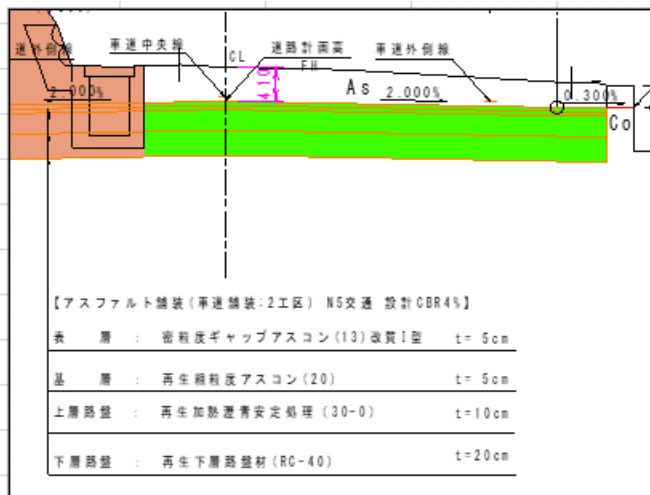
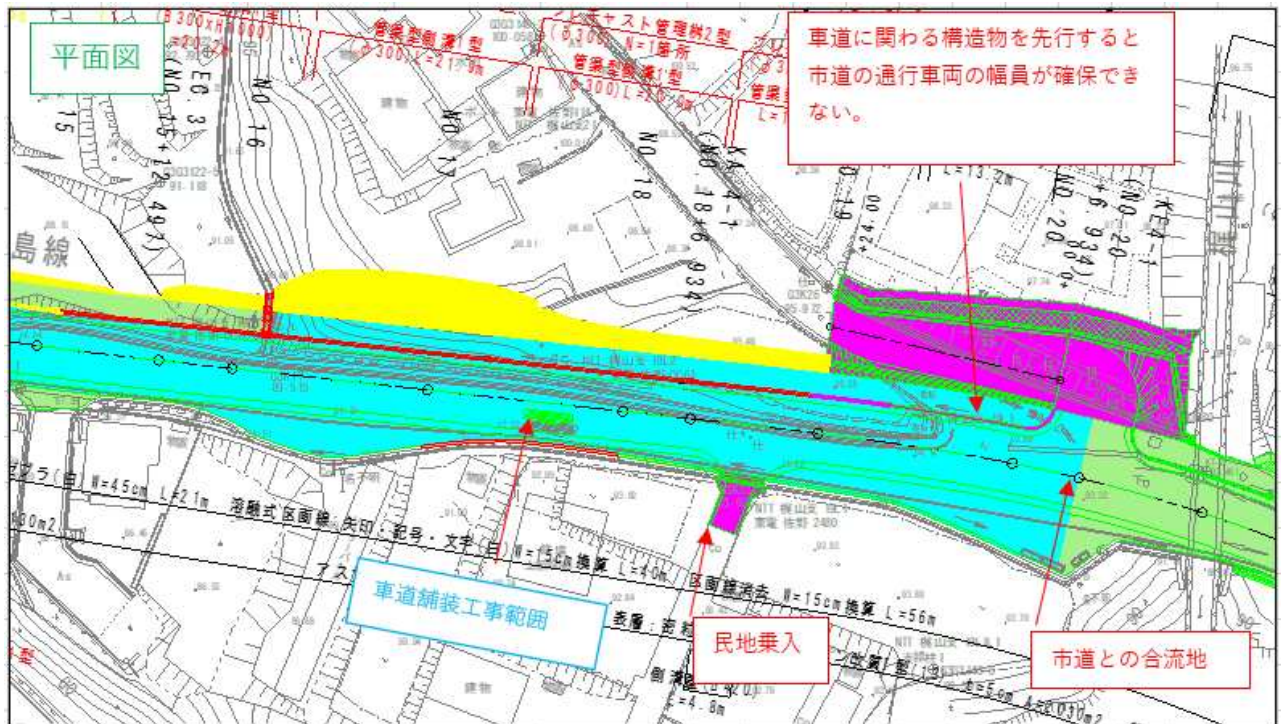


2. 問題点

県単道路改築事業で全体工事区間L=520mあるうちの最終区間L=200mの施工範囲だったが、工事区間内に伊豆市、伊豆の国市新ごみ処理施設があり竣工式の開催日が令和5年1月11日だった。

①開催日の1月11日までに、景観を考慮した終点測点を発注者と市が協議し決定した測点までの舗装工事に関わる構造物の施工を早期に仕上げなければならなかった。舗装工事の終点測点は市道の取付道路との合流点であり、車道舗装工事を優先するには、車道舗装に関わる構造物を進めるが、現地測量をした結果、取付道路の通行車両の道路幅員が確保できないという問題が発生した。

②民地乗入箇所もあり住宅地6軒への乗入坂路であった。車道の舗装構成は現況舗装から約40cm程下がる舗装仕上がりであり、民地乗入計画はW=2.5m、L=5.0で現況から車道へ縦断勾配12%で擦り付け計画であった。摩り付け区間の両サイドには土留めを意味する重力式擁壁の施工と摩り付け端部と車両の間には切下げの現場打ちグレーチング施工と工種の重複する複雑な構成であり住人の出入りを最優先し施工を行わなければならない非常に条件の悪い乗入箇所であった。この2点の問題を新ごみ処理施設開催日に間に合うよう、工程管理、作業効率、交通規制、地元調整が大きな課題となった。



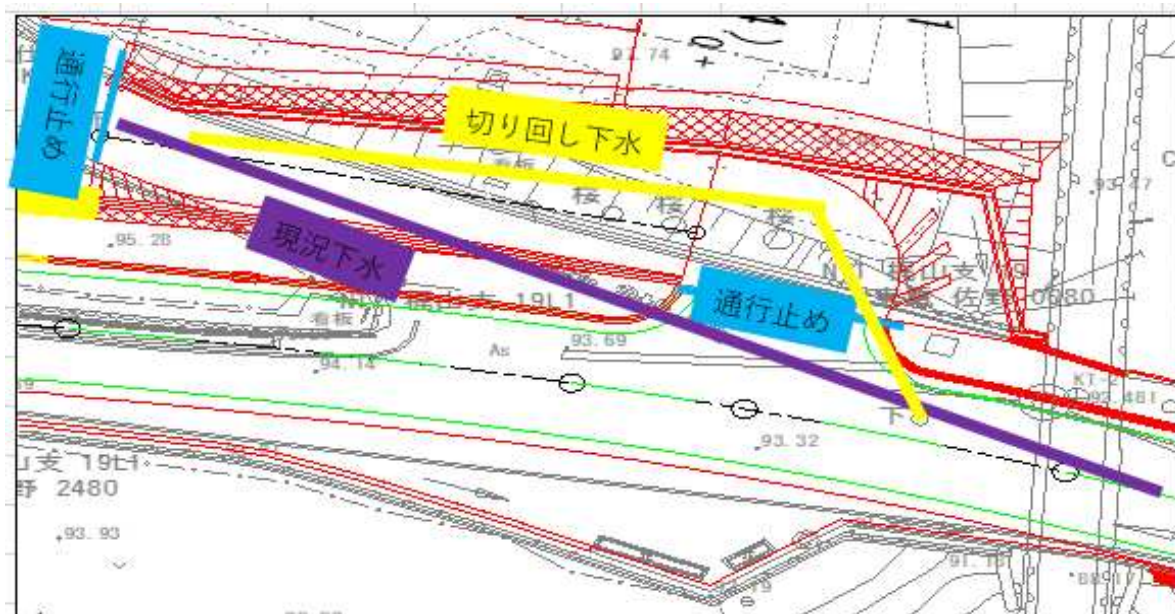
標準横断面図

※現況から仕上りまで約40cm下がる。

舗装構成をいれると約80cm下がる。

3. 対策と結果

①測量をした結果、車道に関わる構造物を優先すると取付道路が現道よりも4.0m程シフトチェンジすることから日常で使われていた道路は車両の通行幅員が確保できなかったため迂回路を計画し市道を終日通行止めとする規制を検討した。道路規制通行止めを行うには、発注者、伊豆市、地元、警察、消防と連携し道路規制を行うのである。再度、工程を立て直し、普段使えてる道路が利用できなくなるので地元の理解を得るのには苦勞したが2カ月間の終日車両通行止めの許可申請書を取り施工を行えることとなった。歩行者通路は確保しながらの作業だったが、通行止めにしたことにより施工ヤードの確保、機械、資材の置場が確保でき作業結果として効率を上げる事が出来た。また市の下水道と上水道の切り回しが道路のシフトチェンジにより発生したが通行止め期日までに施工が完了できた。道路は県管理、埋設物は市管理であり、発注者と連携し調整することにより現場は施工ジョイントのない出来映えの良いものができた。



取付道路
着手前



取付道路
完成

3. 対策と結果

②民地乗入については、住宅地の出入口であるため住人の車両の出入りに影響がない工程を練り、両脇の重力式擁壁は、2基同時施工を行いたいとこだったが車両の通行ができなくなるため、時間はかかりますが住人の生活を最優先することから敷き鉄板を活用しながら1基ずつの施工で仕上げることにした。

住宅地の現況から本線車道への取付は、落差が大きく危険である為、車道舗装工事の時期に合わせて摺り付けをするにこととした。摺り付け端部と車道よこの切下げ現場打ち側溝(グレーチング)は、舗装工事開始日から普通コンクリートの養生期間+施工日数で調整し十分養生したのち車道舗装にはいりました。車道舗装は、片側交互通行で行いました。道路センターに段差が発生し夜間は一般車両への危険があるため24時間片側交互通行規制を2日間実行し、危険を回避した。上り勾配から下り勾配にはいる難所だったが現況から計画面が下がることにより車両は前方方向の認識がしやすくなり施工前と比べ快適な道路になった。



乗入着手前



乗入施工状況



車道着手前



車道完了

4. 終わりに

山の頂点にあった道路で見通しも悪く車両のすれ違いが困難な道路でしたが、道路を削り幅員も広がることにより視距が改善されたことで安全に車両が走行できるようになりました。また元々なかった歩道が整備され小学生や住民も安心して通行できる道路ができました。工事期間中は近隣住人のかたに色々ご迷惑とご心配をお掛けしましたが、皆様のご協力があったからこそ工事が無事に事故やトラブルも無く進んだと思います。今後もこの経験を活かし地域が便利になる、安全な街創り、住民の方々に喜んでもらえる仕事をしていきたいです。